



南部教育事務所便り「南の風」

令和7年12月19日 南部教育事務所 第8号



令和7年度「子どもの学び研究指定に係る」研究推進研修

今年度、県教育委員会では、子どもの主体的な学びを創造するために、県内の中学校8校を「子どもの学び研究指定校」とし、「子どもが主体となって学ぶ授業」となることや「子どもたちの学びが“ひなたの学び”」となることを意識して研究を進めています。南部教育事務所管内では、都城市立山田中学校、小林市立三松中学校、えびの市立真幸中学校の3校が指定されています。

12月3日（真幸中）、5日（山田中、三松中）に熊本大学大学院教育学研究科特任教授の前田康裕先生を講師としてオンラインによる研究推進研修を行いました。

前田先生からは、「ICTによる授業改善と教師の学び方改革」をテーマに「授業観のアップデート」「学習に焦点をあてる」「教師の学び方改革」の3つの観点から講義・演習をしていただきました。



研修後のアンケートから（内容ごとにまとめ、分類しています。）

【対話と深い学びの重要性】

- ・フィードバックや対話を通して学びが深まることを再認識できた。
- ・子どもたちが深く学びたいと思える授業や、主体的な学習の推進に関する具体的な視点が得られた。

【問いを立てる力の育成】

- ・生徒の探究心や思考力を育むために「なぜ？」という発問を授業に取り入れることの重要性を再認識できた。

【「抽象化、概念化」への理解と実践】

- ・研修で得た視点を校内研修に取り入れ、教員自身が考える研修へと変化させたいと思う。

【ICT活用の本質への気付き】

- ・ICT活用がうまくいかない理由を明確にし、効果的な活用法を模索するきっかけとなった。

【学びの主体者としての意識】

- ・生徒の学び方は教師自身の学び方と同じであり、教員自身が常に学び続けることの重要性を強く認識した。

【今後の実践への意欲】

- ・自身の授業スタイルを振り返り、「学び方に変化を起こす」授業、「学習者を育てる」授業を実現するための具体的なヒントを多く得ることができた。
- ・研修で得た学びを活かし、生徒が主体的に学び、深く思考する授業を実践していきたいと思う。

令和8年2月10日に開催される「ひなたの学びフェス」にて研究指定校の研究経過や成果等の発表があります。各学校からの御参加よろしくお願いします。

アシスト企業の御案内

県教育委員会では、専門性や人材など豊富な教育的資源を有する企業等が積極的に学校・家庭・地域の教育活動に参加できる環境を整備し、地域ぐるみの教育支援システムの普及・発展を図るために「アシスト企業」の活用を進めています。県内外の260を超える企業等が「アシスト企業」に登録しており、これまでも学校・家庭・地域のニーズに応じて、様々な講話や研修会、職場体験等を提供していただいています。

「アシスト企業」については、「みやざき学び応援ネット」に活用方法や活用事例が紹介されていますので、是非、御確認ください。



URL : <https://www.sun.pref.miyazaki.lg.jp/assist/>

南部教育事務所のホームページにおいても、随時情報を発信しています。研修等にご利用ください。

<https://cms.miyazaki-c.ed.jp/ssc063>

南部教育事務所HPはこちら

Tel (0986)23-4521

